2022/7/20

総務係

企業見学会の検討

　首記の実施に関する検討を行った。

　これまでの経緯として、報告書ベースの情報から、2018年京都で総務係が担当した模様の企業見学会が最初で、その講演会時に既に翌年2019年東海大開催時にも同様企画が持ち上がり、副委員長を中心に担当実施された模様。翌2020年仙台は実施していない。仙台の総務主査松田先生にヒアリングしたところ、仙台ではアクセスのよい見学先企業候補がないことが理由で5月の段階で実行委員長が見学会非開催を決定したとのことであった。

　学会事務局に相談したところ、以下の意見をいただいている。

・企業見学会は大会前日に企画されているようです。年次大会の準備を考えると、総務係の皆様の力が企業見学会に取られてしまうのは、リスクが高いと思います。

・コロナについて以前ほど過敏ではなくなりつつありますが、まだまだ企業が見学者を受け入れるのはハードルが高いと思います。（当たってみないとわからないところですが）タイミングとしては、あまり良くないと。

　開催目的と効果について以下を仮に想定し、検討した。

1．参加者増による収入増。京都と東海の2回の実績では、20名程度であり、参加費1.2万から2万の幅で、24万から40万円に相当する。全体予算額が京都で1000万・実績1800万、参加費収入が540万予算・実績840万からすると、参加費収入へは見学会参加者全員がその参加動機により新たに学会に参加したとして、最大3%（24/840)から7%(40/540)のインパクトが考えられる。全体予算に対してはその半分程度の割合となる。あまり効果は大きいとはいえない。

2．参加者へのサービス向上と見学受け入れ先のアピールメリット。参加者へのサービス向上はありえるが、学術講演会そのものの価値が大きく、それほど大きな効果が+αで見込めるかどうかは不明。受け入れ先がメリットを感じていただければそれはよいが、20名程度であり、大きいかは不明。

　以上の検討からは、大きなメリットは見出しにくい。

　ただし、主催者として実施したいとの意思があり、リソースが確保できるのであれば実施するのがよいと思われる。

　以上の検討から、今回は、コロナ禍の収束も見込めないことによる受け入れ先の見込みの不透明さ、及び運営の人的資源の課題、収入増へのインパクト及び会員サービスメリットが大きくない状況から、特段の強い要望がない限り、企業見学会の開催は見送ってもよいのではと考えられる。

以下に2018年以降の報告書で企業見学会関係の記述を抜粋付録する。

――――2020年仙台

２．現地実行委員会報告

２．１ 総務係　松田 信幸（主査）

２．１．１ 概要

・・・なお今大会よりプログラムがweb 化され，前年まで総務係担当の予稿集（USB）の準備は不要となった。同じく総務係担当の企業見学会の実施もなかった。

松田主査へのヒアリングから以下の情報を得た。（藤田2022/07/20）

「2019年5月14日に開催された第１回現地実行委員会の議事録を見たところ、以下の記載がありました。

『「企業見学会」は周辺企業の立地のため今回は考えていない．（松浦）』」

---------2019年東海大

担当　伊澤淳（副委員長）

(1) 事前の調整作業

①見学先の調整

前年度京都大会時期より今年度の企画検討を開始する際、企業見学会についても検討を開始した。実行委員会準備委員会（3/2）および第1回実行委員会（5/17）での議論とともに相手先との調整を経て，第2回実行委員会（11/5）にて正式決定した。

②年次大会参加者への宣伝活動

第2回実行委員会での決議を受け，大会HPへの掲載とメール等での宣伝活動，実行委員各位から他学会等への声掛けなどにより参加者を募った。宣伝期間の不足から募集期限を延長し，最終的に17名の参加申し込みを頂いた（関係者含む）。

③移動手段の検討

会場最寄りの小田急線愛甲石田駅から，当初はマイクロバスをチャーターして愛甲石田駅のバスロータリーにて乗降することを考えたが，公共の場所であることから事前の関係各所（警察など）への届け出・許可が必要となる可能性があることや費用面から見送った。駅から会場までは徒歩5分程度と近く，参加人数も徒歩での引率可能な程度であったため，徒歩移動とした。また，徒歩移動が困難な参加者がいた場合のタクシー手配についても検討したが，今回は不要であった。

④アマダ殿との事前打ち合わせ

12/21に大越委員長、伊澤副委員長、山口先生がアマダ殿を訪問し，見学会概要について打合せを行った。参加見込み人数（20名程度）と見学時間から見学内容を大まかにすり合わせた（詳細はアマダ殿にて別途調整とした）。見学にあたっての注意事項として，以下を確認した。

・同業他社の見学は不可

・見学者の事前連絡が必要（上記の判断のため）

(2) 当日の対応

13時に愛甲石田駅改札前に集合し，会場に向かった。参加予定者のうち1名は学会側の連絡ミスにより不参加となった。併設されるフォーラム246にて，開始前に年次大会参加票等の受け渡しを行い，アマダ殿の企業概要をご説明いただいたのち，見学コースをご案内いただいた。

(3) 反省事項及び次年度への申し送り事項

①参加者への連絡調整の不備

申し込み後，アマダ殿での参加可否の判断ののち正式に見学許可が下りるという流れであったが，学会側のミスで見学許可の確認と参加予定者への周知が行われず，1名の方が見学許可が下りなかったと判断され、当日来場されなかった（当日の確認で判明）。

②当日の参加票受け渡しについて

当日に，事前申込者および引換券持参者への参加票等の受け渡しや，それ以外の参加者からの参加費徴収を行った。駅での受付ができなかったのでフォーラム246の説明会場で行ったが，見学会開始前に時間を浪費してしまいあまりスムーズでなかった。事前送付などを検討するべきであった。

③見学会日程について

見学会は，大会開催期間中を外して開催前日の午後に設定した。大会セッションとの重複を避けるという配慮があったが，参加者にとっては予定確保の日数が増えるという負担もある。場所やセッションスケジュールとの兼ね合いもあるが，開催期間中にうまく組み込めれば望ましい。

----2018年みやこメッセ（京都）

5.2.　総務係（主査：井上峻介，副査：小島完興，中宮義英）

5.2.1.　実務

【事前準備】

* 企業見学会の準備

今大会では初めての試みとして，本学術講演会の前日（平成30年1月23日）に「企業見学会」を開催した．参加者は学7名，産19名，合計26名の参加があった．

（１）見学先の選定
京都に拠点を置き，世界中で活躍する企業や研究所を選考した．候補に挙がった企業および研究所は，関西光科学研究所，ローム，島津製作所，堀場製作所，村田製作所，京セラ．①レーザーや光学などのキーワードに合致していること，②工場見学を受け入れていること，③分かり易い集合場所（最寄り駅の改札など）があること，④午後から開始し，半日程度で見学可能な距離にあること，等を考慮して島津製作所（三条工場）と京セラファインセラミック館（近鉄・地下鉄竹田駅）に絞った．

（２）スケジュール
参加者が学会会場（みやこめっせ）の近くのホテルに宿泊していると想定し，見学会終了後の移動を少なくするため，見学順序を「京セラファインセラミック館」→「島津製作所三条工場」とした．

13：00　近鉄竹田駅（西口）集合
バスにて京セラ本社まで移動
13：30 ~ 14:30　京セラ「ファインセラミック館」，「京セラ美術館」　見学
14：30 ~ 15:15 マイクロバスで移動（京セラ→島津製作所三条工場）
15：15 ~ 16:15　島津製作所 三条工場「光デバイス/レーザ機器」，「X線医療用機器」　見学
16：30頃　解散

（３）バスの手配は，１月は閑散期であるため，開催日（1/23）の約２週間前で間に合った．JTBとカースルチャーターバス㈱から相見積（参考資料Ｓ－７，Ｓ－８）をとり，安いJTBに決定した．

（４）集合場所での対応
学会所有の携帯電話を当日の連絡先とした．待ち合わせ時間に遅れる等の問い合わせがあった．

（５）参加者から聞いた感想
京セラの見学では，電子部品開発の裏話など，普段のレーザー等の研究には直接関係がなかったが，逆にとても新鮮で有意義だった．島津製作所の見学では，最新の医療機器や光学部品の製造現場など，普段触れることがない機器に触れることができた．分析装置についても見学できるとよかった．